

会 議 録

会 議 の 名 称	第5回二戸市立小・中学校通学区域調整委員会
開 催 日 時	令和7年11月10日（月）午後6時30分～7時35分
開 催 場 所	二戸市役所1階会議室
公 開 又 は 非 公 開 の 別	公開
出 席 委 員	太田郁夫委員、佐藤順委員、槻館行男委員、新毛公生委員、 荒川優子委員、戸来陽子委員、浪岡幸子委員、小笠原猛委員、 小林聖委員、福原直樹委員、山舘誠委員、橋場重人委員、 中里敬委員、蛇口吉男委員、山本卓也委員、小林温委員、 筒井裕一委員、中野善文委員 (欠席：新毛真武委員、戸来守和委員、工藤裕介委員))
説明のために 出席した職員	加藤教育長、立花教育部長、長畑教育企画課長、大平教育施設係長、 五日市学校教育主査
会 議 の 概 要	・事務局より資料説明 ・答申案について審議

発 言 者	内 容 (要 約)
部長 教育長 会長 会長 課長	1 開会 18:30 第5回二戸市立小中学校通学区域調整委員会を開催する。 委員3名欠席、定数に達していることから会議成立となる。 2 教育長あいさつ いよいよ重要な局面を迎えてきた。本日も皆様方のご意見をいただきたい。 3 会長あいさつ 答申案について事前に郵送している。一読されていれば幸いである。今日は答申案の審議を行う。 4 審議 今回は小学校の学校規模について確認した。1学年2学級以上が望ましいとしながらも、許容範囲を1学級20名と定め、単学級を維持しつつ、複式学級を解消し、教育の向上を図ることを答申の中に盛り込むこととした。 また、児童や生徒の地域の実情などを踏まえつつ、今後の出生数の減少に十分対応できるよう、スピード感をもった計画となるよう答申に盛り込むことも確認した。 通学区域は、市内小中学校1校体制を見据え、集約していくものとし、集約の仕方、学校名を盛り込むかは、答申案の協議とあわせて検討することとした。 通学時間は、国が定める標準とする1時間以内を基準として答申に盛り込むこととした。 小学校、中学校の学校規模と通学区域のあり方について、私から事務局に答申の骨子を伝え、案を整理してもらった。事務局から答申案を説明願う。 資料1は、前回の審議内容を取りまとめたものである。1の小学校の学校規模は、(1)のとおり審議途中となっている3回目までの内容を確認し、審議に入った。(2)のとおり意見をいただき、それを踏まえ、(3)のとおり答申に盛り込む内容を、「1学年2学級以上が望ましいとしながらも、許容範囲を1学級20名と定め、単学級を維持しつつ、複式学級を解消し、教育の向上を図ること」また、「児童生徒数や地域の実情などを踏まえつつ、今後の出生数の減少にもスピード感を持って対応できる計画とすること」と確認した。 2の通学区域のあり方は、(1)のとおり意見をいただき、(2)のとおり答申に盛り込む内容を、「小中学校とも市内1校を見据え集約していく」とし、学校名を盛り込むかは今後ということにした。また通学区域は「1時間以内という基準を設ける」とした。 諮問書で求められている小・中学校の適正な学校規模、通学区域について、

会長	審議で確認した答申に盛り込む内容を踏まえ、資料２答申案としている。 答申案の構成は、最初に通知文、次に表紙、そして答申の内容に入る。答申の内容は「はじめに」の部分は諮問を受けてから答申に至るまでの経緯を簡単に触れている。「１ 諮問内容」は、諮問文を抜粋し、現在の市内小中学校の状況、文科省で示している望ましい学校の在り方、最後に求める意見は、学校規模、通学区域であることを記載している。２の「審議にあたって」は、１回目の委員会において、事務局が述べた審議にあたっての基本的な考え方を記載している。２ページ中段の意見は、答申に盛り込む内容、その下に理由を記載している。適正な学校規模は、「小学校は１２学級以上が適正な学校規模が望ましいと考えるが、現状においては集団編成できる１学級当たりの許容範囲２０人程度と定め、単学級も維持しながら教育の向上を図る必要があると考える。複式学級は、早い時期に解消し、学校規模の適正化を図る必要がある」とし、これらの理由を３項目を記載している。３ページの中学校の規模については、「９学級以上（１学年３学級以上）が適正な学校規模」とし、理由は３項目記載している。 次に（２）の通学区域のあり方は、「将来的に市内小学校１校、中学校１校体制を見据えた通学区域の設定が必要と考える。同じ児童生徒が何度も統合を経験しないよう、学校の場所や教室数等を踏まえた上で、拠点校を設定し、そこに集めていく仕組みが必要と考える」とし、理由は記載のとおりである。 次に３ページの下、「４ むすび」は審議を終えて、委員会として総括を記載している。 次に４ページ目「５ 付帯事項」は、学校規模、通学区域に直接的な内容ではないが、間接的な意見を記載している。１点目は、出生数の減少に伴いスピード感を持った対応、５ページ目に統合になった場合の説明の仕方、統合になった場合の通学方法について記載をしている。 最後のページには、審議の経過を記載している。 答申に盛り込む内容について、大きくは、学校規模と通学区域の２点である。小学校の学校規模は、集団での学び、クラス替えができるという理由などから２学級が望ましいとしながらも、現在においても単学級での学校運営が行われていることから、１学級当たりの許容範囲を定め、複式学級については解消を図ることとして盛り込むこととした。中学校は小学校と同様の理由に加え、９学級の部分で教科担任が配置できる規模という観点から１学年３学級以上とした。通学区域については、今後も少子化、出生数の減少を踏まえると、学校統合は避けて通れない状況になっており、将来は小・中学校ともに市内１校にならざるをえないという共通認識に至ったものと考えている。統合にあたっては、同じ児童生徒が何度も統合を経験しないよう配慮する必要があることから、拠点校を定め、そこに集約していく方法が望ましいとしている。また、審議過程では、スピード感を持った計画となることや、地域への説明について、
----	--

	通学方法について出された意見を付帯事項の中に盛り込んでいる。
委員	前回の資料で、答申に盛り込む内容とした「スピード感を持った対応」は、どこに表現されているか。
課長	4 ページの下段の 2 行目にある「今後の出生率の減少にも速やかに対応できる計画」である。
委員	事前に郵送された答申案を読んだときに気づかなかった。確かに、ここに「速やかに」と書いてると言われればそうだが、もう少し強く表現していただきたい。前回の意見では、3 年程度のうちに第一段階をつくる必要があると具体的な話も出た。速やかにでは少し具体性がないと感じる。
会長	スピード感という部分が、ここでは「速やかに」という言葉で表記してある。5 年、10 年という計画の中で、第一段階を 3 年程度でとなると、5 年終わる前に一度見直さなくてはならない。事務局には、そういう速やかさを表す言葉を考えてもらいたい。
委員	結びの 4 ページ中段から「小中学校それぞれに拠点校を設定し、拠点校に集約する方式が望ましい」とある。拠点校名を盛り込むかについて総合的に考えると、前段で小学校は福岡小学校、中学校は福岡中学校という言葉が出ているので、例えば「拠点校を設定し、拠点校に集約する方法が望ましいと考える。拠点校は福岡小学校、福岡中学校とする」という明記があってもいいと思う。 また、統合の順序は中学校が早くあるべきと感じる。委員の総意でも将来の中学校は 1 校と出ている。子どもたちの中学校活動を均等に平等に扱う観点から中学校が早くあるべきと思う。複式解消も並行するのかというところはあるが、中学校は前期の段階で、スピード感を持って行くべきと考える。
会長	複式を解消した場合、仁左平小の子が福岡小に行き、兄姉が金田一中にいる場合が考えられる。
委員	中学校から先に統合を進めた方がいい思った。兄弟がバラバラになって金田一中と福岡小となると通学で保護者が大変と感じる。 また、何回も学校を移動することになる。仁左平小から福岡小に行き、中学校は金田一中に行った後、福岡中に統合となると回数も増えることになる。
委員	私も中学校が先に賛成です。複式解消をした学校がどこで統合になるかが問題になる。例えば、中学校が統合して、福岡中 1 校であれば、金田一小の子どもたちも、やがては中学校は福岡中に来るわけです。必ずしも福岡小に行かな

	くても、仁左平小の子が金田一小に行っても全く問題ない。複式解消を先にやるにしても、何年後に中学校の統合することが見えていれば問題はない。2ページの小学校の適正規模 20 人程度の単式学級を維持しながらという一文があるので、複式解消で統合する学校が隣の小学校と一緒にしろが、最終的には中学校が 1 校になるので結局は同じことと思う。
委員	いずれは福岡中に行くと言いながらも、統合の回数をできるだけ減らすという部分、1 学級でも良いという部分が気になる。ある程度のスパンを考えたとき、答申にはそこを強く盛り込んだ方がいい。
委員	2 ページの小学校の単学級も維持しながらというところをどこまで維持するのか。概ね 20 人程度の 20 人はどのような根拠だったか？ 36 人だと 2 クラスになるので 18 人程度とした場合、児童数が 16、17 人の時、20 人程度の規模を単学級としていけば 16 人はちょっと足りないとなるが、18 人程度であれば 16 人でもまだ大丈夫という印象になる。令和 13 年度を過ぎても、まだ金田一小はある維持できる。20 人程度という数字の根拠は何かと思っています。
課長	文科省などで示されているものではない。自治体ごとに定めているものである。20 人としているのは、前回の計画をそのまま踏襲している。班編成をしたときに 4、5 人のグループが、5 ないし 6 できるとする。そうすると集団の形成ができるためである。
会長	今は 35 人学級なので、40 人の半分の 20 人ではなく、36 人の半分の 18 人になるのかもしれない。統合を子どもが何回も経験しないようにとした時、仁左平小の子が複式解消で金田一小に行っても、6 年生でまた統合というパターンもあり得る。この 20 人のところを 18 人にすれば、ギリギリなのかなという部分はあるので、最初から拠点校に集約することがわかる盛り込み方だと思うが。
委員	20 人程度のところは 18 人という案もあるのかなと考えました。
委員	通学時間の 1 時間のスタートは家からでいいですか。
課長	そのとおり。
委員	18 人程度とすると、13 年度の数字を見ると、金田一小はもう少し持つのではないかなと思います。統合が 2 回にあたる事がないようにしてもらえれば。

会長	令和 13 年は、出生数が 90 人になってない数字です。このあと 3 年後に 90 人になる。そういうことも踏まえて考えなくてはならない。
委員	皆さんお話を聞き、中学校の統合先は福岡中と思う。統合することで、部活動など良さを感じられればと思う。
委員	2 ページの書き方はやはりこういう書き方になるとは思いますが、先が見通せないのか、どう変化していくのか。中学校は小学校の人数が大体わかればこの先何十年は見通せる。小学校はせいぜい今読めるのは令和 13 年度ぐらい、頑張っても 14 年度までしか読めない。やはり、統合が具体的に見えてる方がいい。つまり、単式学級の基準は、複式解消を図り統合していくためにした方がわかりやすいし、多くの市民の方々も予想がつく。複式が出始めたから、うちもそろそろ統合を考えなければとなるように 1 校に集約を進めた方が良い。明確な基準があった方が市民の方々にはわかりやすい。複式は解消した方がいいと理解をいただければ、1 学年 2 学級以上が望ましいんだが単学級という表現になってくる。単式でやっていけるうちは頑張る。複式になったら統合して複式解消を図るという方がいい。
委員	私は、最初から緩い基準を設けるよりは、今回盛り込んだぐらいの基準にしておくことが良いと思う。一番大事なのは、保護者たちの意見が優先されるべきで、必ずこうなる訳ではない。保護者の中には複式になるタイミングでの統合よりは、早い段階で大きい学校に行ってもらいたいという保護者もいると思う。緩い基準にすると、話し合う場を奪うことになる。ある程度、厳しい基準を設け、対象になったら話し合いを進め、その上で、地域の皆さん、保護者たちがノーと言えれば複式解消のタイミングまで先延ばしする。最終的な判断はやっぱり、地域の皆さん、保護者の皆さんが判断すべきことで、強制するものではない。最初のハードルを高くすることで、話し合うきっかけになる。スピード感っていう部分もやっぱり基準を緩くするよりは、ある程度高いハードルを設けた方がスピード感も出ると思う。中学校を先行するという話も、スピード感に繋がる部分だと思うのでそこも盛り込まれればありがたい。
会長	この答申案を基にした基本計画を策定する中で、先ほど言った話し合いがされていく。最初の幹の部分は少し厳しいことで、統合の協議が早くされるものと思う。 それでは、拠点校名は付帯事項になるのかわかりませんが、最終的に 10 年後、15 年後には小学校 1 校、中学校 1 校ということは皆さんと確認しました。浄法寺小の校舎は福岡小より新しいですが、浄法寺小と決めたときに金田一から通うとき 1 時間以内ではなくなりますので、設備、距離の部分を見ると拠点校は福岡小と福岡中になると思います。

	学校名を入れるかについてはどうですか。ここで拠点校としても計画を作るときに、距離などを理由に福岡小と福岡中とする計画になる可能性は当然あるとは思いますが。子どもたちに最終形が見えたほうが、親もある程度納得すると思いますが。
委員	私は盛り込んでいいと思う。どう考えても福岡小、福岡中になると思うので、はっきりしておいた方がいい。入れ方は、ハード面や距離の部分で選定したという書き方がいい。施設の新しいとか中心に位置することで通学しやすいとかを盛り込みつつ、選定したということを記載されてもいいと思う。
会長	答申の中の大枠はもう拠点校としておいて、5 付帯事項が増える形になります。福岡小、福岡中になる理由付けを入れて、学校名を入れることでいかがか。 【「異議なし」の声あり】
会長	次回、修正したの答申案を見て確認します。 あとは付帯事項に中学校の順序性が入った方がいいと思いますがいかがか。 【「異議なし」の声あり】
会長	中学校はそのように。あとは、複式の考え方、単式の考え方です。計画が策定されて2、3年後に複式解消となると、1年生が6年生までに統合を経験して、中学校に行ったら今度は福岡中にまた統合というパターンも考えられますが。
委員	やはり中学校を先行するべきと思う。小学校の子ども達が、中学校は福岡中1校に統合することが分かっているれば動きやすい。中学校が先ではないと、仁左平小から福岡小、その後、金田一中に入ってすぐ福岡中に統合となると大変だろうし、子どもたちの負担も大きいと思う。10年後には全部1本化、1校にすることがわかっているれば、福岡中しかないとなる。その動きで、早急に複式をなくすか、もうちょっと経っても大丈夫となると思う。具体的に何年後と言ってもらえればいい。
会長	複式というよりも、まず中学校が先というところを盛り込むことでお願いする。付帯がいいのか、ここの意見の中の方がいいのか。
委員	2ページの小学校のところの複式学級は早い時期に解消とあります。これが中学校の統合は早い時期となるのかというあたりではないか。

委員	一緒にということも当然考えられる。これは単純じゃないことではありませんが、できるだけ早くとして、うまくそこが合えばいいと思っている。
会長	中学校が先とうまく盛り込んでいただきたい。
委員	子どもたち、親、地域の人たちにとって見通しの部分だと思う。複式の解消のため、こうのように進んでいく、あるいはうちの学校はここに進むという進学の道筋が見えているかが大きなポイントになる。やはり中学校が早期にという意味で順序性という言葉を使いましたが、みんながある程度安心して進んでいけるような道筋を作るという意味からの順序性ということです。
会長	事務局、盛り込むことは可能ですか。
課長	案を作ってみます。
委員	お願いします。
課長	中学校を先行してという時に福岡中の校舎に生徒数が収まるか今見ています。福岡中の校舎は5クラスが基本で建築されております。今の時点で人数は5クラスで収まるが、普通学級だけではなく特別支援学級もあります。そういうものも含めてもう1回確認する。
委員	中学校を先行して進めるときに、中学校が1つになるのが決定してから小学校の複式解消に入るのか、動きが先にあるけれども、並行してその後、中学校が1つにならなくても複式解消を進めるのか。
委員	自分のイメージは、同時期でいいと思う。複式解消も早くしなければならないという文言もあるので、タイミング的には同時期が一番いいと考えている。
委員	小学校のデメリットの部分はよく見えますが、中学校のデメリットについてはこの方針案では見えてこない。地域の方々はどう考えるかわかりませんが、そこがちょっと間延びしたときに、複式も遅れると良くないと思う。
委員	拠点校の中学校は福岡中と示し、仮に中学校もいずれ統合することがわかり、複式学校の保護者の方々が、最終的には小学校も一つになることが見えていれば、学校の規模が小さくなる前に、中学校より先に福岡小と統合することもありではないか。であれば、むしろ、なおさら、小学校も拠点校をはっきり示しておいた方が、中学校の統合がまとまらないとしても、先が読めていれば、

	早く統合しようという話になる。答申としては付帯事項のところに拠点校が入れば、話の流れ的には問題ない。
会長	まず、付帯事項には拠点校の名前も入れる。それから、その理由も少し入れる。もう一つは、その複式の解消の時期は、拠点校に学校名を入れたことによって、先のことが見えているので、中学校との時期がどうかは別にしても良い。中学校が先行するイメージが、スピード感や速やかと言葉を使う形でどうか。
委員	先ほどの意見の付帯事項に拠点校の学校名が入っていればよいと思う。
会長	それを付帯にするか、結びの部分になるか事務局で検討してみて。
課長	皆さんの意見を踏まえて考える。次回開催の前に皆様に郵送する形で示す。
会長	事務局はこれまでのことを踏まえて答申案の修正して、事前に郵送をお願いします。 次回の開催は12月8日（月）18時30分からということで予定して、今日の会議はこれで終わりにします。お疲れさまでした。